

タウリン投与が不整脈治療に有効であった犬の2症例と猫の4症例

○大池三千男¹⁾ 竹内ヘラルド²⁾ 佐藤麻優²⁾ 渡邊謙一²⁾ 山田学²⁾ 古林与志安²⁾

1) おおいけ動物病院 2) 帯畜大基礎獣医学

【はじめに】タウリンは猫の必須アミノ酸であり、欠乏すると拡張型心筋症（DCM）を引き起こし、タウリン投与によって心機能が回復することが報告されている。犬でも特定犬種のDCMとタウリン欠乏が関連づけられている。今回、不整脈を呈した非DCMの犬と猫の症例に、タウリンを投与し不整脈が改善したので報告する。

【症例1】M・ダックスフンド、避妊雌、16歳齢。嘔吐を主訴に来院した。心電図検査で洞不全と心室性補充収縮を認めた。タウリン250mg PO BIDを開始したところ、22日目に不整脈は消失した。タウリン投与163日目（17歳）に死亡し、病理検査にて心筋の線維化を認めたが、刺激伝導系に異常は認められなかった。

【症例2】柴犬、去勢雄、16歳齢。慢性皮膚疾患の継続治療中に、心拍数72回/分と低下し、心電図検査で心房性早期収縮（心房性ラン）、洞停止、ワンダーリング・ペースメーカーを認めた。タウリン250mg PO BIDを開始したところ、50日目に心拍数は144回/分と通常に復し、不整脈は消失した。

【症例3】雑種猫、避妊雌、9歳。慢性鼻炎から鼻閉症の悪化で再来院した。心電図検査で房室解離と二段脈を認めた。タウリン250mg PO BIDを開始したところ、12日目に不整脈は消失した。

【症例4】雑種猫、避妊雌、21歳。慢性腎不全と痙攣発作の継続治療中に、心電図検査で心房性早期収縮を認めた。タウリン250mg PO BIDを開始したところ、98日目に不整脈は消失した。その後24歳で死亡し、病理検査にて、心筋に線維化と出血を伴う梗塞が認められた。

【症例5】雑種猫、避妊雌、14歳。慢性腎不全の継続治療中に、心電図検査で心室性期外収縮（VPC）を認めた。タウリン250mg PO BIDを開始したところ、32日目にVPCは消失した。

【症例6】雑種猫、避妊雌、14歳。慢性腎不全の継続治療中に、心電図検査でVPCを認めた。タウリン250mg PO BIDを開始したところ、35日目にVPCは消失した。

【考察】本報は、抗不整脈剤ではないアミノ酸であるタウリンが、猫の不整脈にも、犬の不整脈にも有効あることを示した初めての臨床報告である。タウリンは、循環機能改善、フリーラジカルの不活性化、浸透圧調整、カルシウム調整に関与している可能性があり、それらが不整脈に有効に働いたと考えられる。